

夢創造

令和元年5月31日（金）no.7 文責：上田

体育祭明けの火曜日は「チャレンジ弁当」の日でした。子どもの手作りおにぎりにも一人一人の工夫が感じられました。



家庭や地域での「見守り」をお願いします

28日（火）、川崎市で小学生ら19人が包丁で刺され、小6児童とスクールバスを待つ児童に付き添っていた父親の2人が亡くなるという痛ましい事件が発生しました。新聞で亡くなったお子さんのご両親のコメントを読みながら胸がしめつけられる思いがし、犯人への強い憤りを感じました。また、スクールバスを待っていて惨劇を目にした子どもたちの心の傷の深さを思うと、今後何かなされるのかと心配な思いになります。

さて、今回の事件について、新聞等では「見守りに限界」という声があがっています。近年では、一昨年3月に千葉で小3児童が登校中に保護者会長に殺害されたという事件、昨年5月に新潟で下校中の小2児童が殺害された事件がありました。子どもの命を見守る「地域の目」が減っているというのは事実かもしれませんが、やはり「地域の力」が不可欠です。

昨日、『学園生の登下校等における安全対策について』を家庭にお知らせしました。まずは【防犯ブザー（ベル）の携行】【安心安全メールの送受信】等の対策を徹底します。各学年で防犯ブザーを持って登校した子どもの数を調べると約1/3の子どもが持ってきておらず、防犯ブザーを持ってきた子どもでも電池切れか音の鳴らない子が複数いました。ご家庭で整備または購入していただきますようお願いいたします。

今後ともご家庭や地域の皆さん方には学園生の安全が確保されるようご協力をよろしくお願い致します。

梅雨を前に『大雨・洪水警報レベル』運用が始まる

来月6月19日（水）に大雨を想定した避難訓練を実施します。詳細はあらためて文書にてご家庭に連絡しますが、同日、ご家族への引き渡し訓練も行います。昨年から実施している引き渡し訓練は、校内で子どもたちの安全が確保され、災害の危険性が下がったのちに行うという想定です。

では、災害の危険性が下がったとはどんな状態なのでしょうか。今回、気象庁が公表した『大雨・洪水警報レベル』も危険性を判断する指標となります。この機会に考えていただければと思います。「レベル4：緊急避難」です。

大雨・洪水警戒レベルの5段階区分			
警戒レベル	住民が取るべき行動	住民が自ら避難の判断を下す際に参考になる情報	行政が住民に行動を促す情報
5	既に災害が発生。命を守る最善の行動を	氾濫発生情報、大雨特別警報（※）	災害発生情報
4	災害が発生する恐れが極めて高く、緊急避難する	氾濫危険情報、大雨警報（土砂災害）や洪水警報の危険度分布（非常に危険）土砂災害警戒情報	避難指示、避難勧告
3	高齢者らは避難。それ以外の人も準備を進め、自主避難を	氾濫警戒情報、大雨警報（土砂災害）、洪水警報（土砂災害）や洪水警報の危険度分布（警戒）	避難準備・高齢者等避難開始
2	避難の準備を進め、避難先やルートを確認を	氾濫注意情報、大雨警報（土砂災害）や洪水警報の危険度分布（注意）	大雨注意報、洪水注意報
1	災害への心構えを	———	警報級の大雨が降る恐れがあるとの予報

※大雨特別警報は、洪水や土砂災害の発生情報ではないが、既に発生が懸念され、特に警戒が必要とされる状態を示す。